

自由同和

大阪版

運動スローガン

1. 自由な論議の場を!
2. 行政の主体性の確立
3. エセ同和行為の排除

No. 416

2021(令和3年)10月25日発行

■発行所 自由同和会大阪府本部事務局
堺市堺区宿屋町西1丁目1番22号 三徳ビル3F
電話(072)224-1111

■発行人 畑中幸司
定価一部500円 年間6000円(送料込み)

ホームページ▶ <http://jiyudowa-osaka.org/>

大阪市人権問題に関する市民意識調査 (一部抜粋)

人権問題に関する市民意識調査(令和2年度実施)について

令和3年6月14日報道発表

■ 主な調査結果の概要

括弧 () 内の数値は、平成27年度調査の数値

基本的な人権問題に対する意識

「人権」に対する関心度(問1)	
関心がある、少し関心がある	69.1パーセント(65.0パーセント)
あまり関心がない、関心がない	21.1パーセント(24.6パーセント)

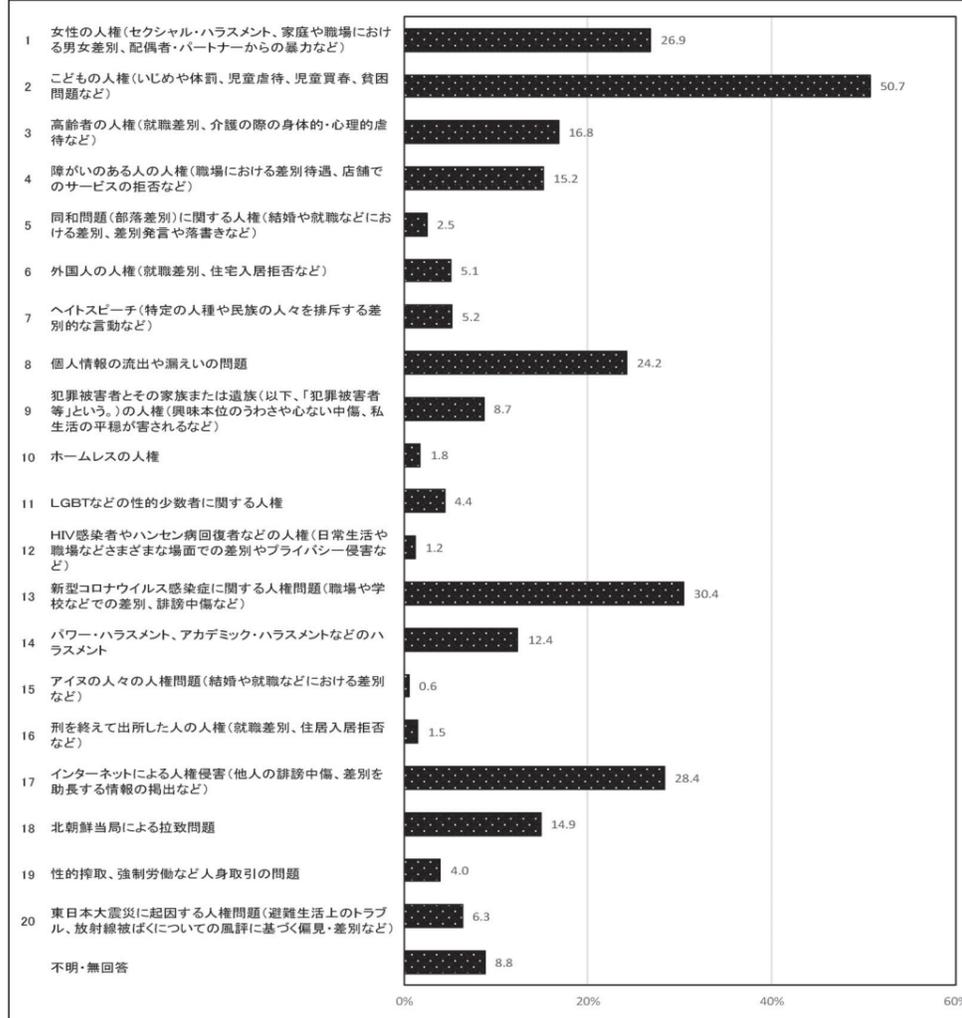
個別の人権問題に関する基本的な意識の状況(問2)		
順位	項目	関心がある・少し関心がある
1位	子どもの人権(いじめや体罰、児童虐待、児童買春、貧困問題など)	90.5パーセント(89.6パーセント)
2位	個人情報の流出や漏えいの問題	86.5パーセント(84.0パーセント)
3位	新型コロナウイルス感染症に関する人権問題	85.7パーセント

(注)平成27年度の1位2位は令和2年度と同じ、3位は、「高齢者の人権」

住宅を選ぶ際の特定地域への忌避意識(問6)	
項目	避けると思う・どちらかといえば避けると思う
同和地区の地域内である	47.7パーセント(54.0パーセント)
小学校区が同和地区と同じ区域になる	38.3パーセント(45.0パーセント)
近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる	39.9パーセント(46.6パーセント)
近隣に外国人が多く住んでいる	35.0パーセント(42.3パーセント)
近くに精神科病院や障がいのある人の施設がある	30.4パーセント(40.5パーセント)

(注)同和地区とは…我が国では同和問題(部落差別)の解決に向け、平成14年(2002年)3月に「地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」(以下、「地対財特法」といいます。)が失効するまでの間、同和地区の環境改善や地区住民の生活向上などに向けた取組が積極的に進められてきました。この調査における「同和地区」とは、地対財特法において取組を進める対象地域として指定されていた地域をいいます。

【図1-3 とくに深刻な問題と考える人権課題】



問2に掲げた人権課題の中でとくに深刻な問題と考えるものを尋ねたところ、「(2) 子どもの人権」と答えた人の割合が50.7%と最も高く、次いで「(13) 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題」が30.4%、「(17) インターネットによる人権侵害」が28.4%となっている。

男性、女性ともに「(2) 子どもの人権」が最も高く、数値は各々48.6%、53.8%となっている。次いで男性では「(17) インターネットによる人権侵害」が31.8%、「(13) 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題」が28.4%、女性では(13) 新型コロナウイルス感染症に関する人権問題」が32.6%、「(17) インターネットによる人権侵害」が25.8%となっている。

年齢別でみると、答えた人の割合が最も高いのは、10歳代から70歳以上まで全ての年代で「(2) 子どもの人権」であり、数値は各々が50.0%、46.6%、51.4%、52.5%、58.2%、43.1%、51.4%となっている。【表1-3-2】

【表1-3-2 性別 とくに深刻な問題と考える人権課題】

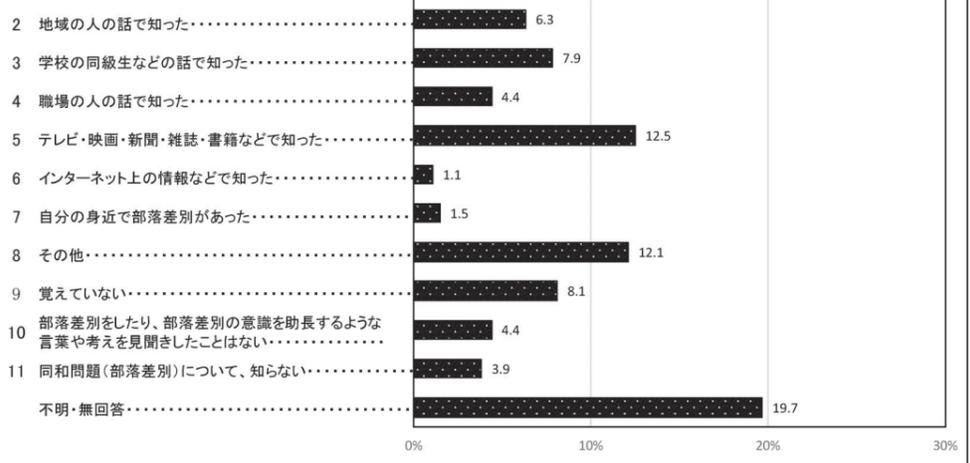
性別	年齢別	課題																			
		ナニからの人権(セクシャル・ハラスメント、家庭や職場における男女差別、配偶者・パートナーからの暴力など)	子どもの人権(いじめや体罰、児童虐待、児童買春、貧困問題など)	高齢者の人権(就職差別、介護の際の身体的・心理的虐待など)	障がいのある人々の人権(職場における差別待遇、店舗でのサービスの拒否など)	同和問題(部落差別)に関する人権(結婚や就職などにおける差別、差別発言や落書きなど)	外国人の人権(就職差別、住宅入居拒否など)	ヘイトスピーチ(特定の人種や民族の人々を排斥する差別的な言動など)	個人情報の流出や漏えいの問題	犯罪被害者とその家族または遺族(以下、「犯罪被害者等」という。)の人権(興味本位のうわさや心ない中傷、私生活の平穏が害されるなど)	ホームレスの人権	LGBTなどの性的少数者に関する人権	HIV感染者やハンセン病回復者などの人権(日常生活や職場などさまざまな場面での差別やプライバシー侵害など)	新型コロナウイルス感染症に関する人権問題(職場や学校などでの差別、誹謗中傷など)	パワー・ハラスメント、アカデミック・ハラスメントなどのハラスメント	アイヌの人々の人権問題(結婚や就職などにおける差別など)	刑を終えて出所した人々の人権(就職差別、住居入居拒否など)	インターネットによる人権侵害(他人の誹謗中傷、差別を助長する情報の掲出など)	北朝鮮当局による拉致問題	性的搾取、強制労働など人身取引の問題	東日本大震災に起因する人権問題(避難生活上のトラブル、放射線被ばくについての風評に基づく偏見・差別など)
性別	市全体	195	368	122	110	18	37	38	176	63	13	32	9	47	4	1	284	149	29	46	726
	男性	47	142	48	45	10	19	20	70	40	5	9	5	16	1	1	284	149	4.0	6.3	888
	女性	161	486	164	154	3.4	6.5	6.8	24.0	13.7	1.7	3.1	1.7	31.0	3	0	55.0	10.0	19.0	39.7	1000.0
	その他、回答したくない	6	4	3	2	0	2	1	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	14
	不明・無回答	5	9	0	1	0	1	3	5	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	24
年齢別	10歳代	4	3	1	0	0	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	20歳代	66.7	50.0	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	58
	30歳代	29.3	46.6	1.7	15.5	1.7	8.6	5.2	27.6	10.3	1.7	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	111
	40歳代	40	57	11	12	3	9	7	34	11	4	13	5	0	0	0	0	0	0	0	118
	50歳代	36.0	51.4	9.9	10.8	2.7	8.1	6.3	30.6	9.9	3.6	11.7	4.5	0	0	0	0	0	0	0	100.0
	60歳代	43	62	12	9	5	8	2	29	15	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	122
	70歳以上	36.4	52.5	10.2	7.6	4.2	6.8	1.7	24.6	12.7	0.8	5.9	0.0	0	0	0	0	0	0	0	116
	不明・無回答	3	8	0	0	0	1	3	4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	20

性別	年齢別	課題																		
		家族や親せきの話で知った	地域の人の話で知った	学校の同級生などの話で知った	職場の人の話で知った	テレビ・映画・新聞・雑誌・書籍などで知った	インターネット上の情報などで知った	自分の身近で部落差別があった	その他	覚えていない	部落差別をしたり、部落差別の意識を助長するような言葉や考えを見聞きしたことはない	同和問題(部落差別)について、知らない	不明・無回答	合計						
性別	市全体	221	90	4	11	206	108	29	46	64	726									
	男性	83	48	2	3	93	54	14	19	26	292									
	女性	129	38	2	7	102	50	13	23	29	396									
	その他、回答したくない	4	1	0	0	5	1	1	2	1	14									
	不明・無回答	5	3	0	1	6	3	1	2	8	24									
年齢別	10歳代	20.8	12.5	0.0	4.2	25.0	12.5	4.2	8.3	33.3	100.0									
	20歳代	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6									
	30歳代	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0									
	40歳代	22	8	0	2	23	2	1	2	2	58									
	50歳代	37.9	13.8	0.0	3.4	39.7	3.4	1.7	3.4	3.4	100.0									
	60歳代	44	15	1	1	35	5	4	2	2	111									
	70歳以上	39.6	13.5	0.9	0.9	31.5	4.5	4.5	3.6	1.6	100.0									
	不明・無回答	33	25	0	0	48	13	6	6	4	118									

第3章 同和問題(部落差別)に関する意識の現状と今後の展望

3-1. 同和問題(部落差別)を知ったきっかけ

問7 あなたが、同和問題(部落差別)について、部落差別をしたり、部落差別の意識を助長するような言葉や意識を、はじめて知ったのはどういったことがきっかけでしたか。



同和問題(部落差別)をはじめて知ったきっかけについて尋ねたところ、「1. 家族や親せきの話で知った」と答えた人の割合が18.0%と最も高く、次いで「5. テレビ・映画・新聞・雑誌・書籍などで知った」が12.5%、「8. その他」が12.1%となっている。なお、その他の内容は、「学

(2面に続く)

校の授業」が最も多く、次いで「学校のイベント」「友人から知った」「同和地区が近所にあった」などがあげられた。

性別でみると、男性では「1. 家族や親せきの話で知った」が17.1%と最も高く、次いで「5. テレビ・映画・新聞・雑誌・書籍などで知った」が12.7%、「3. 学校の同級生などの話で知った」が9.2%となっている。

女性では「1. 家族や親せきの話で知った」が17.7%と最も高く、次いで「8. その他」が14.6%「5. テレビ・映画・新聞・雑誌・書籍などで知った」が12.9%、となっている。

年齢別でみると、答えた人の割合が最も高いのは、10歳代、20歳代、30歳代、50歳代、60歳代では「1. 家族や親せきの話で知った」であり、数値は各々16.7%、17.2%、17.1%、16.4%、21.6%となっており、40歳代では「8. その他」で22.9%、70歳代以上では「5. テレビ・映画・新聞・雑誌・書籍などで知った」で20.0%となっている。なお同率で高いのは、10歳代では「3. 学校の同級生などの話で知った」「5. テレビ・映画・新聞・雑誌・書籍などで知った」「8. その他」「10. 部落差別をしたり、部落差別の意識を助長するような言葉や考えを見聞きしたことはない」「11. 同和問題(部落差別)について、知らない」、20歳代では「覚えていない」、30歳代では「8. その他」となっている。【表3-1-2】

【表3-1-2 性別・年齢別 同和問題(部落差別)を知ったきっかけ】

Table with columns for gender, age group, and various sources of information (e.g., family, school, media). Includes a sub-caption '(上段:人、下段:%)'.

3-2. 同和問題(部落差別)に関する学習経験

問8 あなたは、同和問題(部落差別)について、学習した(または啓発などを受けた)ことがありますか。また、それらの機会を通じて、同和問題(部落差別)についてどの程度、理解が深まりましたか。次の(1)~(12)の項目についてそれぞれお答えください。(それぞれ1つに○)

【問7にて「同和問題(部落差別)について、知らない」と回答された方以外が対象】

【表3-2-1 同和問題(部落差別)に関する学習経験】

Table with columns for learning experience items (e.g., school lessons, seminars, reading) and counts/percentages. Includes a sub-caption '(上段:人、下段:%)'.

3-3. 同和問題(部落差別)に関する差別意識や偏見に関する現状

(1) 同和問題(部落差別)に関する差別意識の現状

同和問題(部落差別)に関する差別意識や偏見について尋ねたところ、「現在も残っている」と答えた人の割合が32.2%と最も高く、次いで「わからない」が31.9%、「弱まりつつある」が25.4%となっている。

性別でみると、男性では「現在も残っている」が32.7%と最も高く、次いで「弱まりつつある」が27.8%、「わからない」が27.1%となっている。

女性では「わからない」が35.6%と最も高く、次いで「現在も残っている」が33.0%、「弱まりつつある」が23.5%となっている。

年齢別でみると、答えた人の割合が最も高いのは、10歳代では「現在も残っている」と「わからない」で、ともに40.0%、20歳代、60歳代、70歳以上では「わからない」であり、数値は各々38.0%、37.7%、36.5%となっており、30歳代、40歳代、50歳代では「現在も残っている」であり、数値は各々37.5%、38.3%、38.0%となっている。【表3-3-1-2】

【表3-3-1-2 性別・年齢別 同和問題(部落差別)に関する差別意識の現状】

Table showing awareness of discrimination by gender and age group. Columns include '現在も残っている', '弱まりつつある', 'わからない', '不明・無回答', and '合計'.

3-4. 同和地区の人に対する就職・結婚時の現状イメージと展望

問10 現在、就職や結婚等について、同和地区の人への差別は残っていると思いますか。

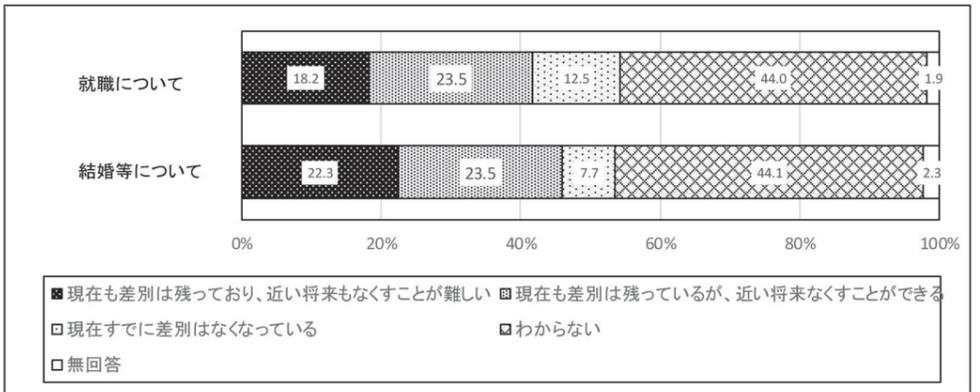
また、それは、近い将来、なくすことができると思いますか。(それぞれ1つに○)

【問7にて「同和問題(部落差別)について、知らない」と回答された方以外が対象】

【表3-4-1 同和地区の人に対する就職・結婚時の現状イメージ】

Table showing current and future expectations for employment and marriage. Columns include '現状', '近い将来', 'わからない', '不明・無回答', and '合計'.

【図3-4 同和地区の人に対する就職・結婚時の現状イメージ】



同和地区の人への差別は残っていると思うかについて尋ねたところ、就職については「わからない」の割合が最も高く44.0%、次いで「現在も差別は残っているが、近い将来なくすことができる」が23.5%、「現在も差別は残っており、近い将来なくすことが難しい」が18.2%となっている。

結婚については「わからない」の割合が最も高く44.1%、次いで「現在も差別は残っているが、近い将来なくすことができる」が23.5%、「現在も差別は残っており、近い将来なくすことが難しい」が22.3%となっている。